

Korea File 2019 NO.2 別冊「朝鮮の声」(2019/04/01~05/02)

●金正恩党委員長が朝鮮最高人民会議第14期第1回会議で施政演説(4/12)

「現段階での社会主義建設と朝鮮政府の対内外政策について」

親愛なる代議員の同志の皆さん！

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第1回会議は、自主の道に沿って前進するわが共和国の尊厳と国力が力強く誇示され、社会主義建設が極めて重要な時期に招集されました。

全ての人民の高い政治的熱意と積極的な参加の下に最高人民会議第14期代議員選挙が成功裏に行われて朝鮮政府が新たに組織されたことで、わが国家の主権はより一層強化され、党と朝鮮政府の周りに一つの心、一つの志で結集して社会主義のより高い段階に向かって確信を持って進むわが人民の革命的進軍はさらに速度を出すことになるでしょう。

私は、全ての代議員、同志の皆さんが全ての人民の意思を代表して私に栄光あるわが祖国、朝鮮民主主義人民共和国の國務委員会委員長として再び国家の全般活動を導くよう大きな信頼を表したことに心からの感謝を贈るとともに、朝鮮の発展、繁栄とわが人民の幸福のために献身、奮闘することを厳かに盟約します。

同志の皆さん！

全社会の金日成・金正日主義化の旗印を高く掲げて社会主義偉業を完成させるのは、朝鮮政府に提起される重大な歴史的任務です。

全社会の金日成・金正日主義化はわが党と朝鮮政府の最高綱領であり、社会主義国家建設の総体的方向、総体的目標です。

金日成・金正日主義を国家の建設と活動に徹底的に具現してこそ、わが共和国を永遠に偉大な金日成同志、金正日同志の国家に強化発展させ、主席と総書記の志と念願通りにわが人民の自主的要求と理想を輝かしく実現していくことができます。

わが共和国政府は、全社会を金日成・金正日主義化する闘いをさらに力強く行って社会主義偉業の遂行で決定的勝利を収めていくでしょう。

1

同志の皆さん！

全社会の金日成・金正日主義化を実現する上でわれわれに提起される基本の闘争課題は社会主義強国建設偉業を完遂することです。

社会主義強国の建設は、社会主義の完全勝利を収めるための闘いの歴史的段階であり、それは金日成・金正日主義国家建設思想を徹底的に具現することでのみ輝かしく完成されます。

金日成・金正日主義国家建設思想には、わが共和国を史上最も尊厳ある、威力ある社会主義国家に強化し、発展させてきた偉大な領袖(りょうしゅう)金日成同志と偉大な指導者金正日同志の国家建設の思想と業績が集大成されており、国家政権を政治的武器にして社会主義偉業を完成させるための方向と方途がはっきりと明示されています。

朝鮮政府は、偉大な金日成・金正日主義国家建設思想を確固たる指導的指針に据えて国の戦略的地位と国力を新たな高みに引き上げ、チュチェの社会主義偉業の遂行で根本的な転換を起さなければなりません。

国家の建設と活動で自主の革命路線を徹底的に貫徹しなければなりません。

自主はわが共和国の政治哲学であり、金日成・金正日主義国家建設思想で中核を成します。社会主義国家は、全ての活動で自主の柱を立てて主体的立場を確実に堅持してこそ国の尊厳と人民の運命を守り、自らの実情に即して自分の力で社会主義を建設し、完成させられます。わが共和国は自主を朝鮮革命の生命、国家建設の根本の礎にして事大と教条、外部勢力の強権と圧力を断固排撃し、革命と建設をわれわれ式に前進させてきた偉大な主席と偉大な総書記の賢明な指導の下、自主、自立、自衛の社会主義国家に建設され、発展してきたし、こん

1

にちも自主の強国として世界にその尊厳と威容を高くとどろかしています。近年、帝国主義との決死の対決の中で並進の歴史的偉業を成就して平和へと向かった情勢の流れを主導しているわが共和国の戦略的地位と影響力は日々強化されています。他国の自主権を意のままに籠絡する帝国主義の行為がいつにも増して露骨になり、少なからぬ国が自分を守る力がなくて悲惨な運命を強いられているこんにちの世界でわが共和国のように自主の柱が強く、国家の安全と人民の幸福を自力で保証していく国を見つけるのは難しいです。

国家の建設と活動で自主の革命路線を堅持するのはわが共和国の一貫した確固不動の立場です。

わが国は地理的に諸大国の間に位置し、依然として国土が分断されており、わが共和国を抑え付けて弱体化させ、圧殺しようとする敵対勢力の策動が増大する中で社会主義建設を行っています。地域的・世界的範囲で覇権争奪のための列強の矛盾と対決も一層激化しています。

わが革命の特殊な環境とこんにちの複雑な世界情勢の中で朝鮮が自主権と尊厳を固守し、真の繁栄を遂げるには、確固たる自主的立場で自分の力を強化して自立的に発展していかねなければなりません。わが共和国は、世界の社会主義陣営が存在し、大なり小なり国家間の協力関係が結ばれていた過去にも革命と建設で独自性と自主性を堅持してきたし、自力更生で社会主義建設を前進させてきました。自主の革命路線を守って自力で社会主義を建設していくのは、わが共和国が変わりなく堅持すべき国家建設の根本原則になります。

わが共和国は今後も、東風が吹こうと西風が吹こうと、いかなる挑戦と難関が前に立ちほだかろうとわが国家と人民の根本利益に関わる問題では少しの譲歩や妥協もしないであろうし、全てを自力、自強の原則で解決してわれわれ式、われわれの力で社会主義強国の建設を推し進めていくでしょう。

自主の革命路線を国家の建設と活動に具現していく上で重要なのは、革命の主体的勢力を強化して社会主義の全ての分野をわれわれ式に発展させていくことです。わが人民を偉大なチュチェ思想、民族自主精神でしっかり武装させ、党と朝鮮政府の周りに固く結集して国の政治・思想陣地を鉄のように打ち固めていかねなければなりません。朝鮮政府は経済と国防、文化の全ての分野を確固たる主体的立場でわれわれ式に発展させ、他人式、他人風を少しも許容しないでしよう。

党と人民大衆が統一、団結して革命の強力な主体を成し、自主、自立、自衛の強固な基礎の上で絶えず強化され、発展していくわが共和国の前途は明るく洋々としています。

国家活動と社会生活全般に人民大衆第一主義を徹底的に具現しなければなりません。

人民大衆第一主義は人民大衆を革命と建設の主人と見なし、人民大衆に依拠して人民のために滅私服務することに関する政治理念です。人民大衆第一主義には、人民を世界で最も貴重で力のある存在に押し立てるチュチェの革命哲学が具現されており、人民を限りなく愛して人民の要求と利益を最後まで実現しようとするわが党と朝鮮政府の透徹した立場が反映されています。

人民は社会主義国家の根、地盤であり、その発展の担当者です。党と政権機関の全ての活動が人民の要求と利益を擁護、実現し、人民のために忠実に服務することに徹底的に志向、服従されてこそ革命と建設が成功裏に推し進められ、社会主義の生命力と優位性が高く発揮できます。

国家の活動で人民を重視する観点と立場を堅持するのは、社会主義建設の過程に活動家の間で権勢と官僚主義のような人民の利益を侵害する現象が現れかねないことと関連して重要な問題として提起されます。人民の上に君臨して人民が付与した権限を悪用する特権行為は社会主義のイメージと人民的性格を傷つけ、党と国家に対する人民の支持と信頼を低下させて社会主義制度の存在そのものを危うくしかねません。

わが党は生涯、人民を天のように信じて人民のために全てをささげた偉大な主席と偉大な総書記の以民為天の崇高な思想と志を継承して従っていくために革命の指導思想である金日成・金正日主義の本質を人民大衆第一主義に定式化したし、チュチェの人民観、人民哲学を党と国家の活動に具現することを最大の重大事に掲げました。

「全てを人民のために、全てを人民大衆に依拠して！」のスローガンには、わが党と朝鮮政府の人民大衆第一主義の立場が凝縮されています。われわれは、国家社会生活全般で人民的なもの、大衆的なものを最優先、絶対視し、人民の福利増進のために全てを惜しみなく投じてきました。近年、わが国家が壮大な大建設事業を大きなスケールで行っているのも、決して国に資金が余っているからではなく、世界で一番良いわが人民により幸福で文化的な生活を与えるためです。

わが党と朝鮮政府は、人民の利益を侵害する権勢と官僚主義、不正、腐敗に反対する闘いを国家存亡に関わる運命的な問題に掲げ、それとの断固たる戦争を宣布したし、強度な闘いを行うようにしました。

党と国家の活動、社会生活全般に人民大衆第一主義を具現する闘いの中で党と国家と人民は一つの運命共同体を成すようになったし、わが共和国は類例のない試練と難関の中でも揺るぎなくその発展の軌道に沿って力強く前進してこれました。

われわれは、社会主義建設が深化するほど人民大衆第一主義を具現する活動にさらなる力を入れて革命の前進動力を倍加し、他人がまねできない朝鮮式社会主義固有の優位性を引き続き高く発揚していかなければなりません。

党と国家は人民のために滅私服務し、人民は党と国家に自分の運命と未来を全的に委託し、真心を尽くして従うまさしくここに人民大衆第一主義が具現されたわが国家の真の姿があります。

朝鮮政府は、人民大衆第一主義を根本の中の根本として変わりなく確実に堅持し、人民の力に依拠して人民の理想である社会主義の明るい未来を早めるために力強く闘っていくでしょう。

国家の全般活動に対する党の指導をあらゆる面から保障しなければなりません。

党の指導は社会主義国家建設の本来の要求であり、国家活動の生命線です。社会主義国家は、人民大衆の要求と利益の体现者である党の指導の下でのみ人民の服務者としての使命を立派に遂行できるし、社会生活の全ての分野と地域に対する統一的指導と全般的社会主義建設のための闘いを正しく企画し、行っていきます。革命的党の指導が保障されなかった社会主義政権はその本性を失い、反動層と陰謀家の玩弄物に転落することになり、結局は人民が政治的孤児の不幸な境遇を免れません。

わが党は、多くの段階の社会革命と社会主義建設を導く過程に豊富な経験を積み、高い指導的手腕と能力を備えた老練な革命の参謀部です。敵対勢力との緊迫した対決の中で社会主義強国を建設するための壮大な創造大戦を導いて世界が注目する奇跡的な勝利を相次いで収めているわが党の指導は、人民に限りない誇りと必勝の信念を与えています。

国家の活動に対する党の指導は政治的指導、政策的指導で一貫されなければなりません。党は社会主義政権が進むべき指針を与え、全ての国家の活動を正しく行っていくように導く嚮導（きょうどう）的勢力であり、国家は党の路線と政策の執行者、貫徹者です。党と政権のこのような相互関係からわが党は国家の活動に対する党の指導を実現する上で全ての党組織が自分の部門、自分の部署の活動を統一的に掌握し、政治的、政策的に指導するようにすることに深い関心を払っています。政治的指導機関である党が行政活動に巻き込まれて実務的方法にしがみつけば自分の本道を失うのはもちろん、行政機関の機能をまひさせて党の権威を傷つけ、結局は革命と建設を台無しにしかねません。

今、わが共和国政権は朝鮮労働党の革命的な指導思想と科学的な戦略、戦術に依拠して国家と社会に対する統一的指導を円滑に実現しています。朝鮮政府は今後も、党の思想と指導に忠実であることで、人民大衆の自主的権利の代表者、創造的能力と活動の組織者、人民生活に責任を持った戸主、人民の利益の保護者としての使命を果たしていかなければなりません。

金日成・金正日主義が明らかにした社会主義国家建設の思想と原則をしっかりと堅持していくとき、わが共和国は誰も手出しできない自主の強国、人民の理想が全面的に実現する人民

の国家、無限大の発展の潜在力を余すところなく発揮し、世界に先駆ける偉大な国にさらに立派に建設されるであろうし、社会主義偉業の勝利はさらに早まることになるでしょう。

2

同志の皆さん！

社会主義強国建設のための現段階の闘いでわが共和国に提起されている中心課題は、国の全ての力を経済建設に集中して社会主義の物質的基礎をしっかりと打ち固めることです。

経済的自立は自主的な国家建設の物質的保証であり、前提です。自立的で強力な経済力によってのみ国家の尊厳を守り、政治的・軍事的威力も絶え間なく強化していきます。

こんにちの政治情勢の流れは、わが国家が自立、自力の旗印をより高く掲げることを求めています。

最近、われわれの核戦力の急速な発展の現実の前で自分らの本土の安全に恐れを覚えた米国は会談場に出てきて、一方では関係改善と平和の風呂敷包みをいじくり回し（提案をちらつかせ）、他方では経済制裁に必死にしがみついて何としてもわれわれが進む道を逆戻りさせて先に武装解除、後に体制転覆の野望を実現する条件を整えようと躍起になっています。米国がわが国家の根本利益に反する要求をいわゆる制裁解除の条件に掲げている状況で、われわれと米国との対峙（たいじ）はいずれにせよ長期性を帯びるようになっており、敵対勢力の制裁もやはり続くことになるでしょう。われわれは、敵対勢力の恒常的な制裁の中で社会主義を建設してきたが、だからといってそれに慢性化しては絶対にならないし、革命の前進速度を少しも緩められません。力ではわれわれをどうすることもできない勢力にとって制裁は最後の窮余の一策であるとしても、それ自体がわれわれに対する耐え難い挑戦であるだけに、決してそれを許すことも、傍観することもできないし、必ず迎え撃って踏みつぶさなければなりません。長期間の核の威嚇を核で終息させたように、敵対勢力の制裁の突風は自立、自力の熱風で一掃しなければなりません。

われわれには、最短期間内に国の経済を活性化させて世界の先進水準へと跳躍させられる自立的发展の能力と基盤があります。数十年間打ち固めてきた自立経済の土台と能力ある科学技術陣、自力更生を体質化して愛国の熱意で血がたぎる英雄的人民の創造的力は、われわれの貴重な戦略的資源です。われわれはこの巨大で無限の潜在力を全て爆発させてもう一度世界を驚かす奇跡的な神話を創造すべきであり、他国に先駆けてより高く飛躍しなければなりません。

自立的民族経済建設路線をしっかりと堅持して自力更生の革命精神を強く発揮していくとき、われわれは他人が推し量ることも、創造することもできない力で驚くべき発展、上昇の道を通り抜けることになるでしょう。

社会主義経済建設でわが党と朝鮮政府が掲げている戦略的方針は、人民経済を主体化、現代化、情報化、科学化することです。

人民経済の自立性と主体性をあらゆる面から強化しなければなりません。

自立経済発展の基本の保証となる動力と燃料、原料の自給自足を実現する闘いを力強く展開しなければなりません。

電力工業部門は、既存の電力拠点を整備、補強して生産を最大限に増やして電力供給を科学化、合理化し、水力と潮力、原子力をはじめ展望のあるエネルギー資源を積極的に開発してより多くの発電能力を造成しなければなりません。

経済発展の斥候戦区である炭鉱、鉱山が探査と掘進を先立たせ、採掘と運搬の機械化の実現に力を集中して工業の食糧である石炭と鉱物の生産を大々的に増やさなければなりません。

金属工業部門が、チュチュ鉄生産拠点を科学技術的に完備して正常運営し、われわれの実情に合う新しい現代的で大規模な鉄の生産体系を確立すべきであり、化学工業を徹底的にわれわれの原料と資源に依拠するチュチュ工業、省エネ型・省力型工業に転換して肥料と化学繊維、合成樹脂をはじめさまざまな化学製品に対する国内需要を満たさなければなりません。

人民生活の向上で決定的意義を持つ食の問題と消費財の問題を最短期間に解決しなければなりません。

農業部門が種子と肥料、水の問題と耕地面積の確保に特別な注目を払って科学的営農方法を取り入れ、農作業の機械化の割合を高めて党が示した穀物目標を無条件達成しなければなりません。養鶏工場と養豚工場をはじめ畜産拠点を現代的に新設、改修し、家畜の飼養管理を科学化して大衆挙げて草食家畜の飼育を粘り強く推し進めるべきであり、水産業の物質的・技術的土台を強化して水産物の生産と加工で転換をもたらさなければなりません。

軽工業工場が原料、資材の国産化とともに再資源化を重要な戦略に掲げて、生産工程の現代化を推し進めて新製品の開発に力を入れ、人民に多様で良質の消費材がより多く行き渡るようにしなければなりません。

われわれは、人民により立派で文化的な生活条件を与えるための大建設事業をさらに力強く展開しなければなりません。建設部門は建築設計と建設工法を革新し、建設部署の技術装備の水準を高めて世界的な建築物をより多く建て、建材工業部門はセメントの生産能力を拡大して仕上げ材の国産化の割合を決定的に高めなければなりません。

交通輸送部門は、わが国の現実的条件に即して鉄道輸送と船舶輸送を強化するための革命的な対策を立て、首都と道機関所在地の旅客輸送の問題をわれわれ式に解決しなければなりません。

人民経済の部門別構造をさらに改善、完備して全ての部門をバランスよく発展させ、マグネシア工業と黒鉛工業をはじめ展望のある経済分野で世界的な競争力を確保しなければなりません。

人民経済の現代化、情報化を積極的に実現して国の経済を知識経済に確実に転換しなければなりません。

機械製作工業と電子工業、情報産業、ナノ産業、生物産業をはじめ先端技術産業の発展の戦略と目標を立てて投資を集中しなければなりません。全ての部門が、科学技術と生産が一体化し、生産工程の自動化、知能化、無人化が高い水準で実現した親工場、標準工場を築き、これを一般化して経済全般を世界の先進水準に引き上げなければなりません。

地方経済を発展させ、対外経済活動を活性化しなければなりません。

各道市郡は、地元の自然地理的有利性と経済技術的および伝統的特性を正しく生かして地域的特色のある経済を建設し、発展させていかなければなりません。国家的に地方が自力で立ち上がって発展していけるように権限を与えて実務的対策を伴わせなければなりません。

対外経済部門は、自立的民族経済建設路線に徹底的に立脚して国の経済基盤の強化に切実に必要な部分と事柄を補充する方向で対外経済協力と技術交流、貿易活動を多角的に、主導的に策略を持って行わなければなりません。

社会主義自立経済の潜在力を余すところなく発揚するために国の全ての人的・物的資源と可能性を統一的に組織、動員して経済発展の新たな要素と動力を生かすための全面的な対策を講じなければなりません。

国の経済活動を国家の統一的な掌握と統制、戦略的な作戦と指揮の下に行っていかなければなりません。

国家経済発展戦略と段階別計画を科学的で現実的に立てて正確に執行し、経済活動に対する国家の統一的指導と戦略的管理を十分に実現し、企業が生産と経営活動を円滑に企画し、行っていけるように機構体系と活動体系を整備しなければなりません。

経済活動に関する国家の制度的・法律的条件と環境を改善し、経済機関、企業が国家の利益と人民の福利増進を優先視して定められた法と秩序を厳格に守るよう強い規律を立てなければなりません。

社会主義経済の本来の要求に即して計画化をより改善し、経済管理の重要な要である価格、財政、金融の問題を経済の原理と法則に沿いながらも現実的意義があるように解決して企業と生産者が強い意欲と熱意を持って働いていくようにしなければなりません。経済活動を科学的打算に基づいて最良化、最適化するための対策を立て、原料と資材、資金と労力を極力節約して支出の効果を高め、国の全ての資源が国家発展に最大に寄与するようにしなければなりません。

自立経済発展の基本動力は人材と科学技術です。

人材重視、科学技術重視の気風が確固たる国風になるようにし、人材を幅広く探し出して適材適所に登用し、生産と技術の発展を主導していくようにすべきであり、科学技術部門に対する国家の投資を絶えず増やさなければなりません。

戦略的で中核的であり、実利があつて経済的意義の大きい重要科学技術研究の課題と対象を正しく定めて人員と資金を集中することで、経済全般を活性化して先端技術産業を発展させる上で科学技術が決定的な寄与をするようにしなければなりません。

朝鮮の政治的・軍事的威力をさらに強化しなければなりません。

わが共和国の政治的・思想的力は社会主義国家政治制度の優位性と強固さに基づいています。われわれは、全ての人民に真の政治的権利と尊厳を実質的に保障し、全国が思想・意志的に、道徳、信義で団結して絶え間ない発展を遂げていくわれわれの制度の政治的・思想的優位性を強く発揚していかなければなりません。

朝鮮政府は人民の利益を絶対的基準と見なし、人民の意思と要求を反映して政策を立てて執行することで、労働者、農民、知識人をはじめ広範な勤労大衆が国家政治の真の主人として国家社会管理に積極的に参加するようにしなければなりません。

朝鮮政府は、社会主義社会の本来の要求に即して政治・思想活動を確実に先立たせて社会の全ての構成員を真の金日成・金正日主義者に育て、わが国家の政治的・思想的統一と団結をさらに強固に打ち固めていかなければなりません。

朝鮮政府は、国家の法体系を完備して国家社会生活で法の役割を強化するようにしなければなりません。

朝鮮の法は、革命の獲得物を守って社会主義制度を強固にし、発展させ、人民の権利と利益を擁護、保障する威力ある武器です。革命と建設が深化するのに合わせて党政策の要求に立脚し、現実を反映して法の規範と規定をより細分化、具体化して科学的に制定し、完成させて適時に修正、補充することで、社会主義国家の人民的な政治の実現を頼もしく保証しなければなりません。全社会に社会主義順法気風を徹底的に確立して全ての人民が高い順法意識を持って国家の法を尊重し、自発的に、義務的に順守するようにし、法機関の役割を高め、法の執行で二重規律を許容してはならないし、法の適用で科学性と客観性、公正さと慎重さを徹底的に堅持することで、わが国を法が人民を守り、人民が法を守る最も優れた社会主義法治国家にしなければなりません。

自衛的国防力はわが共和国の自主権守護の強力な宝剣です。

こんにち、朝鮮半島に到来し始めた平和の気流は強固なものではないし、わが共和国に対する敵対勢力の侵略企図がなくなったのでもありません。われわれは、強力な軍事力によってのみ平和が保障されるという哲理を常に銘記して自衛の原則を確固と堅持し、国防力を引き続きしっかりと打ち固めなければなりません。

朝鮮政府は、人民軍を強化して全人民武装化、全国要塞（ようさい）化の実現に必要な人的・物的資源を優先的に十分に供給し、国防工業の主体化、現代化を完璧に実現して国家防衛力を絶えず向上させていくでしょう。

社会主義文化をわれわれ式に開花、発展させなければなりません。

国家的に教育を最優先視する気風を立ててわれわれ式の教育革命を推し進め、発展した国の教育水準に追いつき、追い越さなければなりません。教育部門は教員陣を強化し、現代教育発展の趨勢（すうせい）に従って教育の質を高めて国の科学技術発展と社会主義建設を担っていく人材をより多く育成しなければなりません。

全人民科学技術人材化のスローガンを高く掲げ、全ての勤労者を働きながら学ぶ教育体系に網羅して知識型勤労者に育てなければなりません。

朝鮮政府は、社会主義保健医療事業に特別に大きな力を入れなければなりません。医療サービスをさらに改善して医学科学技術を先端水準に引き上げ、保健医療部門の物質的・技術的土台を強化して人民がわが国の社会主義保健医療制度の恩恵にさらにしっかりと浴するようにしなければなりません。

文化・芸術部門が時代の要求と人民の志向を反映した名作をより多く創作、創造し、特に映画部門が新世紀の映画革命の炎を起こして社会主義文化発展の新たな全盛期をもたらす上で先駆者の役割を果たさなければなりません。

スポーツは国力を打ち固めて民族の英知と尊厳をとどろかす上で極めて重要な役割を果たします。国家的にスポーツ科学と競技技術を発展させて大衆スポーツを広く企画し、催すのに力を入れ、国際大会も十分に行えるようにスポーツ施設を増やし、現代的に改修する活動を先を見通して行わなければなりません。

社会主義生活様式と道徳紀綱を確立するのはわれわれの思想、われわれの制度を守って輝かすための深刻な政治闘争であり、激しい階級闘争です。

われわれは、社会の全ての構成員が社会主義のわれわれの文化が一番であり、われわれの生活様式と道徳が一番であるという誇りと自負心を抱いて集団主義的生活気風と道徳気風を高く発揮し、文明の発展を志向するこんにちの時代の美感に合うわれわれ式の革命的でロマンある生活文化を積極的に創造し、広く享受するようにしなければなりません。人々の精神を侵食し、社会を変質、墮落させるあらゆる不健全で異質な現象のわずかな要素にも警戒心を持って思想教育、思想闘争を強度に行い、法的闘争の度合いを高めてわが国家の思想・文化陣地をしっかりと守らなければなりません。

朝鮮政府に提起された膨大な革命課題を成功裏に遂行するには、人民政権機関の機能と役割を高めなければなりません。

人民政権機関は、革命発展の要求に即して社会全般に対する統一的指導をより一層強化しなければなりません。

社会主義政治制度を絶えず強固にして発展させ、経済・文化建設を推し進めるための活動を堅持していかなければなりません。特に、政権機関の活動で経済活動を優先視して人民生活の向上に力を集中しなければなりません。社会生活の全ての分野と地域を掌握し、統一的に指導して個別の部門と部署の創意性を高く発揚しなければなりません。

人民政権機関は自身の本分に応じて人民大衆のために滅私服務する気風を立てなければなりません。

人民政権機関は、常に人民の声に耳を傾けて彼らの要求を反映して活動を作戦して設計し、人民が願うことを探して最後まで実践し、人民大衆を動員して党の路線と政策を貫徹していかなければなりません。全ての活動で人民の利益と便宜を最優先に図り、人民生活を責任を持って見守らなければなりません。

人民政権機関は、偉大な総書記が国が最も困難な時期にも変わりなく固守した無料義務教育制度と無料治療制度をはじめ優れた人民的施策を正確に実施することで、人民が社会主義祖国のありがたみを生活を通じて実感し、祖国の富強発展のために立ち上がるようにしなければなりません。

人民政権機関は、党の指導の下でのみ活動することを鉄則と見なさなければなりません。

人民政権機関は、党の思想と方針を物差しにして全ての活動を計画、実行し、党政策を積極的に擁護して党が示した革命課題を忠実に行うことで、わが党政策の生命力が力強く誇示されるようにしなければなりません。各級党組織は、革命発展の要求に即して政権機関の活動に対する集団的指導を深化させ、全ての活動家が革命に担った自分の責任と本分を果たすよう積極的に後押ししなければなりません。

各級人民政権機関の活動家の責任と役割を高めなければなりません。

こんにちの難しい現実には、わが活動家に総攻勢の戦闘で果敢な闘いを行って革命の指揮メンバーとしての本分を全うするよう切実に求めています。

人民政権機関の活動家は、高い党性と革命的原則性を備えて受け持った事業を自分が全責任を持つ立場で大胆に、積極的に推し進めなければなりません。大胆さと積極性が党を信じる心から生まれるなら、消極性と機嫌取りは党に対する信頼が足りないことから生まれます。活動家が手助けしてこそ成績を収める受動的で受け身な仕事に対する姿勢を決定的に根絶すべきであり、党が与えた課題は体が壊れることがあっても最後までやり遂げる強靱（きょう

じん) な革命家の働きぶりを備えなければなりません。活動家は、着想力と組織力、掌握力と指導力、展開力を絶えず育てていかなる課題も滞りなくやり抜く活動の熟練者にならなければなりません。わが党の大衆工作方法を体得し、全ての活動で率先垂範の気風を発揮して人民のために足を棒にして駆けなければなりません。わが党の人民愛の真意を心に刻み、人民の前で限りなく謙虚でなければならないし、常に人民と生死苦楽を共にして人民のために一身を全てささげる人民の真の忠僕にならなければなりません。

3

同志の皆さん！

民族最大の宿願である祖国統一のためのわれわれの歴史的な闘いはこんにち、新たな局面を迎えています。

われわれは、偉大な領袖金日成同志と偉大な指導者金正日同志が生涯、最大の心血と労苦を傾けた祖国統一偉業を必ず実現する確固たる決心を持って北南関係の改善と朝鮮半島の平和保障のための画期的な措置を相次いで講じています。

昨年、われわれが3度にわたって歴史的な北南首脳の対面と会談を行い、北南宣言を採択して北南関係で劇的な転換をもたらしたのは、刻一刻と戦争の入り口に近づく重大な情勢を転換し、祖国統一のための新しい旅程の出発を宣言した大変意味の大きい出来事でした。

今、全民族は歴史的な板門店宣言と9月平壤共同宣言が徹底的に履行されて朝鮮半島の平和な雰囲気を持続的に保たれ、北南関係が絶え間なく改善していくことを切々と願っています。

しかし、南朝鮮の保守勢力は民族の志向と国際社会の一般的な期待にあまりにも不実な言動で応えており、北南関係を板門店宣言発表以前の時期に逆戻りさせようと躍起になっています。

米国は、南朝鮮当局に「速度調節」を露骨に強迫しており、北南合意の履行を自分らの対朝鮮制裁・圧力政策に服従させようと各方面から策動しています。

これにより、われわれの前には朝鮮半島の緊張を緩和して北南関係改善の雰囲気を引き続き保っていくか、あるいは戦争の危険が増す中で破局へと突っ走っていた過去に逆戻りするかという重大な情勢が生じています。

われわれは、民族の運命と前途、地域の平和と安全に対する深刻な懸念をかき立てる現在の事態を袖手(しゅうしゅ)傍観できないし、全同胞の一般的な志向と念願に即してそれを正すための積極的な対策を早急に講じていかなければなりません。

そのためには、いかなる難関や障害が横たわっても民族の総意が集約された北南宣言を変わりなく固守し、徹底的に履行していこうとする立場と姿勢をまず正しく持たなければなりません。

既に宣明したように、南朝鮮当局と手を取り合って北南関係を持続的で強固な和解・協力関係に転換し、全同胞が一様に願う通りに平和で共同繁栄する新しい民族の歴史をしるしていこうとするのは、私の確固不動の決心であることを改めて明白にしておきます。

生じた忌まわしい現事態を收拾し、北と南が苦勞して築いた関係改善の良い雰囲気を高め、それが平和と統一の意味ある結実で日の目を見るようにするには、自主の精神を曇らせる事大的根性と民族共同の利益を侵害する外部勢力依存政策に終止符を打ち、全てを北南関係の改善に服従させなければなりません。

私は、南朝鮮当局が真に北南関係の改善と平和と統一を願うなら、板門店対面と9月の平壤対面時の初心に返って北南宣言の誠実な履行で民族に担った自分の責任を果たさなければなりません。

南朝鮮当局は、趨勢(すうせい)を見て左顧右眄(うべん)して多事多端な訪問を催促し、差し出がましく「仲裁者」「促進者」ぶるのではなく、民族の一員として目を覚まして自分が言うべきことは堂々と言ひ、民族の利益を擁護する当事者にならなければなりません。

北南関係改善の雰囲気を引き続き生かしていくには、敵対的な内外の反統一・反平和勢力の蠢動（しゅんどう）をたたきつぶさなければならないというのがわれわれの一貫した主張です。

米国と共に看板を掛け替えて既に中断することになっていた合同軍事演習まで再び強行し、隠蔽（いんぺい）された敵対行為に執拗（しつよう）にしがみついた南朝鮮軍部好戦勢力の無分別な策動をそのままにして、一方的な強盗の要求を前面に掲げて関係改善に人為的な障害を来している米国の時代錯誤な傲慢（ごうまん）と敵視政策を根本的に清算せずには、北南関係での進展や平和繁栄のいかなる結実も期待できないことを手遅れになる前に悟るのが必要です。

北と南、海外の全同胞は、民族の運命と前途を懸けて北南関係の改善と平和統一に向かった歴史の流れに挑戦する米国と南朝鮮保守勢力の策動を断固阻止し、破綻させなければなりません。

南朝鮮当局が真に北南関係の改善と平和と統一の道に進む意向なら、われわれの立場と意志に共感して歩調を合わせるべきであり、言葉ではなく実践の行動でその本心を示す勇断を下さなければなりません。

わが党と朝鮮政府は今後も、民族の志向と念願を厳かに心に刻み、北南関係の持続的な発展と国の平和統一を実現するために引き続き真摯（しんし）で忍耐力のある努力を傾けていくでしょう。

同志の皆さん！

世界の脚光の中で昨年6月、シンガポールで史上初めて行われた朝米首脳の対面と会談は、火と火が行き交っていた朝鮮半島に平和定着の希望を与えた重大な契機であったし、6・12朝米共同声明は世紀をまたいで敵対関係にあった朝米両国が新しい関係の歴史をしるしていくことを世界に示した歴史的な宣言であることにより、平和を志向する国際社会の全幅の支持と賛同を受けました。

朝鮮民主主義人民共和国は、核実験と大陸間弾道ミサイル（ICBM）試射の中止をはじめ重大で意味のある措置を主導的に講じて朝米敵対関係解消の基本の鍵である信頼構築の第一歩を踏み出したし、米大統領が要請した米兵遺骨送還問題を実現する寛大な措置も講じて新しい朝米関係樹立の里程碑となる6・12朝米共同声明を誠実に履行しようとする意志を誇示しました。

しかし、去る2月、ハノイで行われた第2回朝米首脳会談はわれわれが戦略的決断と大勇断を下して踏み出した歩みが果たして正しかったのかに対する強い疑問を抱かせたし、米国が真に朝米関係を改善しようとする考えがあるのかに対する警戒心を持たせた契機となりました。

われわれは、第2回朝米首脳会談で6・12朝米共同声明の履行のために必ず経るべき必須の段階と経路を朝米双方の利害関係に合致するように設定し、より慎重で信頼的な措置を講じる決心を披歴したし、それに対する米国の回答を期待しました。

ところが、米国は全く実現不可能な方法についてのみ頭を擽って会談場にやってきました。言い換えれば、われわれと対座して問題を解決していく準備ができていなかったし、はっきりした方向と方法論もありませんでした。

米国は、そのような頭では百回、千回われわれと再び対座するとしても、われわれを少しも動かさないであろうし、自分らの利益を一つも得られないでしょう。

今、米国ではわれわれのICBMの迎撃を想定した試験が行われ、米大統領が直接中止を公約した軍事演習が再開されるなど、6・12朝米共同声明の精神に逆行する敵対的な動きが露骨になっており、これはわれわれを甚だしく刺激しています。

私は、このような流れを非常に不快に思います。

風が吹けば波が立つように、米国の対朝鮮敵視政策が露骨になるほど、それに応えるわれわれの行動も伴うことになっています。

最近、米国が第3回朝米首脳会談を再び考えており、対話を通じた問題解決を強く示唆しているが、新たな朝米関係樹立の根本方途である敵視政策の撤回に依然として背を向けており、むしろわれわれを最大に圧迫すれば屈服させられると誤断しています。

われわれもちろん対話と協議を通じた問題解決を重視するが、一方的に自分の要求だけをのませようとする米国式対話法は体質的に合わないし、興味ありません。

米国が対話を通じて問題を解決しようと言いつつも、われわれに対する敵対感を日増しにさらに高めるのは、油で燃える火を鎮火させるというのも同然の愚かで危険な行動です。

朝米間に根深い敵対感が存在している状況で6・12朝米共同声明を履行していくには、双方が互いの一方的な要求条件を取り下げ、各自の利害関係に合致する建設的な解決法を求めなければなりません。

それにはまず、米国が現在の計算法を捨てて新たな計算法を持ってわれわれに歩み寄るのが必要です。

今、米国が第3回朝米首脳会談の開催について多く述べているが、われわれはハノイ朝米首脳会談のような首脳会談が再現されることについてはうれしくもないし、行う意欲もありません。

しかし、トランプ大統領が引き続き指摘するように、私とトランプ大統領の個人的関係は両国の関係のように敵対的ではなく、われわれは依然として立派な関係を維持しており、思い立てばいつでも互いに安否を尋ねる手紙もやり取りできます。

米国が正しい姿勢を持ってわれわれと共有できる方法論を求めた条件で第3回朝米首脳会談をしようというなら、われわれとしても一度は行ってみる用意があります。

しかし、今この場で考えてみると、いわゆる制裁解除問題のために渴して米国との首脳会談に執着する必要がないと考えるようになります。

いずれにせよ、今年末までは忍耐力を持って米国の勇断を待ってみるが、前回のように良い機会を再び得るのは明らかに難しいでしょう。

今後、朝米双方の利害関係に共に応え、互いに受け入れ可能な公正な内容が書面に書かれてこそ、私はちゅうちょなくその合意文に署名するであろうし、それは全的に米国がどんな姿勢でどんな計算法を持って出てくるのかに懸かっています。

明白なのは、米国が今の政治的計算法に固執するなら問題解決の展望は暗く、極めて危険でしょう。

私は、米国がこんにちの重要な時点で賢明な判断を下すものと期待し、ようやく止めた朝米対決の秒針が永遠に再び動かなくなることを願います。

朝鮮政府は、わが国の自主権を尊重して友好的に接する世界の全ての国との友好と協力の絆を強化し、発展させていくであろうし、朝鮮半島で恒久的で強固な平和体制を構築するために世界の全ての平和愛好勢力と固く手を取り合って進むでしょう。

同志の皆さん！

今述べたように、敵対勢力の制裁解除問題の類いにはもはや執着しないであろうし、私はわれわれの力で復興の前途を開くでしょう。

われわれの闘争目標は膨大で、社会主義建設の前途に依然として挑戦と難関が横たわっているが、金日成・金正日主義の旗印高らかに自力で富強の新たな局面を開いて強国の理想と目標を実現していこうとするわが党と朝鮮政府の意志は確固不動です。

自主の道に繁栄があり、勝利があります。自分の力を信じて自分の力で前途を切り開いていこうとする透徹した信念と意志を備えた国家と人民のとうとうたる進軍は、何によっても向きを変えたり、止めたりできません。

皆が偉大な金日成・金正日主義の旗印をさらに高く掲げ、党と朝鮮政府の周りに固く結集して社会主義強国建設偉業を輝かしく実現するためにこぞって進撃していきましょう。

●朝鮮中央通信社論評：歴史の懲罰は避けられない（04/04）

光州人民蜂起冒瀆する「自由韓国党」

最近、光州人民蜂起を冒瀆（ぼうとく）した者に対する懲戒処分で逆賊党である「自由韓国党」の正体がさらに赤裸々に現れている。

周知のように去る2月、「自由韓国党」所属の「国会」議員3人が光州人民蜂起を「北の特殊軍によって起きた暴動」、「5・18蜂起有功者」を「怪物集団」であると冒瀆し、蜂起を鎮圧した全斗煥を「英雄」であると賛美する妄言を吐いて民心の怒りをかき立てた。

当時、「党の公式見解ではない」だの、「歴史的事実に対する多様な解釈は存在し得る」だのと冗舌で言い逃れようとしていた「自由韓国党」一味は、各階層の強い糾弾世論に直面すると、「手続き通りに懲戒する」と民衆をだましすかした。しかし、その後、「他の党にこれを補欠選挙に利用されかねない」とうそぶき、この連中に対する懲戒を「国会」議員補欠選挙以降に延期したし、しまいには自分らが推薦した「国会」倫理審査諮問委員3人を全員辞任させることで「5・18妄言者」に対する「国会」懲戒審査を破綻させた。

諸般の事実は、「自由韓国党」一味に正義と真実、民主化精神を冒瀆したわずかな罪の意識もなく、専ら欺瞞（ぎまん）と時間稼ぎで懲罰を回避して自分らの政治的野望を満たすことにのみ没頭していることを如実に示している。

これは、変わりようのない保守逆賊一味の本性である。

李承晩の「自由党」に根を置く極右保守集団は、代々悪名高いファッショ独裁「政権」を排せつして積極的に後押しし、南の全土を人権と民主主義の墓場にする先頭に立ってきた。

「光州市民の70%を殺してもかまわない」という殺人命令の下に全光州市を血の海に沈め、極悪な軍事ごころつき「政権」を太らせてきた者もほかならぬ「自由韓国党」の祖先であった。

軍事ファッショ一味の子孫である「自由韓国党」一味が5・18の歴史的事実を歪曲（わいきょく）、隠蔽（いんぺい）して犠牲者を冒瀆し、真相の究明をことごとく阻んできたのは日常茶飯事であって、決して驚かない。

自分らの血なまぐさい過去を覆い隠してファッショ独裁を復活させようとする逆賊の群れ、「5・18妄言者」をかばう共犯者がいわゆる「懲戒の公正さ」や「倫理審査」をうんぬんすることこそ悲喜劇にほかならない。

南朝鮮社会の悪性腫瘍である「自由韓国党」という犯罪の群れを根こそぎにしないなら、第二の光州惨事は時間の問題となるであろう。

南朝鮮の人民は、保守逆賊一味がいくらじたばたしても歴史の懲罰を避けられないことを自らのたゆみない闘いで証明するであろう。

●金正恩党委員長が朝鮮労働党政治局拡大会議を指導（04/10）

朝鮮労働党中央委員会政治局拡大会議が9日午後、党中央委員会本部庁舎で行われた。

朝鮮労働党委員長で朝鮮国務委員会委員長であるわが党と国家、軍隊の最高指導者金正恩同志が会議を指導した。会議には、政治局常務委員と政治局委員および委員候補が参加した。また、党の部長、第1副部長、一部の部署の副部長、そして各道党委員長がオブザーバーとして参加した。

政治局の委任によって敬愛する最高指導者が司会を行った。

会議は、朝鮮最高人民会議第14期第1回会議に提出する「2018年国家予算執行状況と19年国家予算について」を討議し、承認した。また、「党中央委員会第7期第4回総会を招集することについて」を討議し、招集日と議題を決定した。

会議では次に、党中央委員会と政府、各道党幹部の活動に関する資料の通報が行われた。

敬愛する最高指導者は、党中央委員会の各部署と内閣の活動の実態を分析し、政治局メンバーと政府、地方の党活動家の活動と生活で現れた良い点と欠点を指摘した。

敬愛する最高指導者は、党および国家的に早急に解決し、対策を取るべき問題について深く分析し、こんにちの緊張した情勢に対処して幹部が革命と建設に対する主人らしい態度を持って高度の責任感と創意性、自力更生、艱苦（かんく）奮闘の革命精神を高く発揮し、わが党の新たな戦略的路線を徹底的に貫徹していくことについて強調した。

敬愛する最高指導者は、党中央委員会の基本部署が党政策の指導で基本をしっかり捉えて全ての活動を責任を持って、積極的に、創造的に企画、展開し、革命発展の要求に即して自らの機能と役割をあらゆる面から高めて党活動で新たな転換を起こしていくことに言及した。

敬愛する最高指導者は、幹部の中で慢性的な形式主義、要領主義、主観主義、保身主義、敗北主義と党の権勢、官僚主義をはじめあらゆる否定的な現象を徹底的に根絶して党の路線と政策を執行、貫徹するために献身、奮闘し、真の人民の忠僕としての自らの革命的本分を全うしていくことについて強調した。

●朝鮮中央通信論評（04/10）

過去の清算を抜きにした『戦後日本外交の総決算』などあり得ない

国際社会だけでなく、日本国内でも過去の犯罪をあくまでも否定する日本政府を糾弾する声が降り注いでる。

最近、ある記者会見で日本の鳩山（由紀夫）元首相は、朝鮮半島の分断に大きな責任のある日本が奇跡のように訪れた朝米、北南の雪解け時に自分の役割を果たさず、むしろ妨害者となった現実を嘆き、日本が自分のすべきことをしっかり果たすべきであると主張した。

去る2月には、東京の中心で朝鮮に対する日帝の植民地支配を謝罪し、反省することを安倍政府に求める「日本市民知識人の声明」が発表されたし、日本の宗教家も3・1人民蜂起100周年を契機に過去の蛮行について重ねて公に謝罪した。

これが日本の良心である。

しかし、日本の反動層は社会の正義と良心を踏みにじり、戦後70余年が流れたこんにちまでも朝鮮民族をはじめアジアの人民に働いた血なまぐさい罪悪をあくまでも否認しており、破廉恥な歴史歪曲（わいきょく）策動に執拗（しつよう）にしがみついている。

過去の否定はすなわち、過去の復活である。

こんにち、国際社会の懸念と警戒を呼んでいる無分別な軍事力増強と急進的な憲法改悪策動、国粹主義が横行する政治風土など、日本の乱れた現実がこれを証明している。

日本がいくら「積極的平和主義」「国際社会に対する貢献」を唱えても、「政治小者」「エコノミックアニマル」の待遇しか受けられないのは決して偶然ではない。

朝鮮半島問題での疎外、地域諸国との政治的・外交的摩擦、国連安全保障理事会常任理事国への進出挫折など、今、日本に山積する全ての難題はどれも代を継いで執拗に過去の清算を回避してきたことから招かれた当然の結果である。

過去の鎖に足首をつながれては一步も進めないし、歴史の重い荷物を下ろさないならいつまでも通常国家になれない。

去る1月末、日本の安倍（晋三）首相は施政方針演説で「戦後日本外交の総決算を果断に進めていく」と述べ、「戦後70年以上残されてきた課題に必ずや終止符を打つとの強い決意」を力説した。

忠告するが、20世紀に日帝がアジア諸国の人民に働いた極悪非道な反人倫犯罪を認めて謝罪し、賠償することこそ、戦後日本外交の根本であり、回避できない歴史的課題である。

日本は、歴史と人類に負った実に多大な罪悪の借りをうやむやにしていわゆる「決算」を語るな。

過去の清算だけが敵国の汚名をすすぎ、国際社会と融合して堂々と生きる道であることを悟るとき、初めて日本に未来がある。

●金正恩委員長が朝鮮労働党中央委第7期第4回総会を指導（04/10）

朝鮮労働党中央委員会第7期第4回総会が10日、党中央委員会本部庁舎で行われた。

朝鮮労働党の金正恩委員長が総会を指導した。

総会には、朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員と政治局委員および委員候補、党中央委員および委員候補、党中央検査委員が参加した。

党中央委員会の一部の部署の副部長とその他のメンバーがオブザーバーとして参加した。

党中央委員会政治局の委任により、金正恩委員長が司会を務めた。

総会には次のような議題が上程された。

1. 社会主義建設で自力更生の旗印をさらに高く掲げていくことについて
2. 朝鮮最高人民会議第14期第1回会議に提出する国家指導機関の構成案について
3. 人事

総会では第1議題が討議された。

金正恩委員長が第1議題に関する報告を行った。

金正恩委員長は、自力更生の旗印をさらに高く掲げて国の自立的経済の土台を強化し、社会主義建設を推し進める上で提起される重要な問題を討議、決定するために党中央委員会第7期第4回総会を招集したと述べた。

金正恩委員長は報告で、変遷した国際環境と日増しに激化していく現情勢の特殊性を科学的に分析し、最近行われた朝米首脳会談の基本趣旨とわが党の立場について明らかにし、わが国の条件と実情に適し、われわれの力と技術、資源に依拠した自立的民族経済に基づいて自力更生の旗印高らかに社会主義建設をさらにたゆみなく前進させていくことで、制裁でわれわれを屈服させられると血眼になって誤断する敵対勢力に深刻な打撃を与えなければならないと述べた。

金正恩委員長は、第7回党大会以降、自力更生の旗印高らかに社会主義建設を推し進める闘いの過程での成果と欠点を総括、分析し、自立経済の威力をさらに高く発揚する上で必ず達成すべき当面の目標と課題を示した。

金正恩委員長は、自力更生の旗印を高く掲げて自立経済の威力をしっかりと打ち固めるとき、われわれはさらに発展して強力になり、社会主義強国建設の目標も成功裏に達成するであろうと強調した。

金正恩委員長は、第7回党大会と党中央委員会総会の決定貫徹のために全ての部門と地域、部署が自力更生、自給自足の旗印の下に不屈の攻撃戦を繰り広げて近年、社会主義建設で大きな成果が収められたことに言及した。

金正恩委員長は、人民経済を主体化、自立化する闘いで重要な前進が遂げられ、わが国家の底力と自立経済の強大な潜在力を内外に力強く示威したことについて指摘し、社会主義建設で収めた注目すべき成果を通じてわれわれの路線が極めて正しかったことを痛感することになったと述べた。

金正恩委員長は、自力更生と自立的民族経済は朝鮮式社会主義の存立の基礎、前進と発展の原動力であり、わが革命の存亡を左右する永遠の生命線であると強調した。

金正恩委員長は、わが革命の発展と社会主義建設の根本の要求から、党中央は自力更生の旗印高らかに社会主義強国を建設するのがわが党の確固不動の政治路線であることを改めて宣明することになると指摘した。

金正恩委員長は、わが党は朝鮮式社会主義建設の現在の現状と展望、情勢発展の推移を科学的に見通して今年の新年の辞で「自力更生の旗印高らかに社会主義建設の新たな進撃路を開いていこう！」の革命的スローガンを示したと述べ、自主的な発展と繁栄の宝剣である自力更生の革命精神と闘争気風で継続革新、継続前進、連続攻撃を行って自力で飛躍する社会主義建設の一大転換期を開いていくことに言及した。

そして、自力更生の旗印高らかに社会主義建設を推し進める上で優先的に提起される問題は、自立経済の土台を拡大、補強して国の経済を新たな成長段階に移行させられる確実な保証をもたらすことであると述べ、当面の人民経済の部門別の課題を具体的に明らかにした。

金正恩委員長は、自力更生の旗印高らかに社会主義建設を推し進める上で国家の経済的潜在力を余すところなく発揚する問題が重要であることに言及した。

また、経済事業に対する国家の統一的指導を強化して実利を保障し、効率を高める立場で経済活動を企画し、行って節約闘争を強化することについて指摘した。

金正恩委員長は、全ての部門と部署の活動家がわが党の科学教育重視、人材重視政策を徹底的に貫徹する上で自分の部門と部署の成果だけでなく、社会主義建設の今日と明日が懸かっていることを銘記し、科学教育の発展のために全てを尽くさなければならないと述べた。

また、科学者、技術者が、自国の地に足を着けて目は世界を見よとの党の意図に従って発展した全てを創造的に取り入れ、教育体系をさらに完備して教育の質を高め、人材の隊列を引き続き増やすとともに、科学教育に対する国家的投資を増やすことについて指摘した。

金正恩委員長は、自力更生の旗印高らかに社会主義建設を力強く推し進める闘いで党組織の役割を決定的にさらに高めることについて特別に強調した。

そして、党組織が5大教育（主席と総書記の偉大さ教育、金正日愛国主義教育、信念教育、反帝・階級教育、道徳教育）とともに自力更生教育を政治・思想活動の主な課題として捉え、全ての活動家と党員と勤労者を自力更生の革命精神が骨髓に徹した真の闘士に準備させ、誰もが朝鮮式社会主義の発展方式に関する正確な知識を持って新たな万里馬速度創造のための大進軍にこぞって決起するようにすることに言及した。

また、党組織は、活動家が活動に対する強い責任感と多才多能な実力を備え、こんにちの自力更生大進軍で旗手としての役割を果たしていくようにしなければならないと指摘した。

金正恩委員長は、全ての党組織と活動家が朝鮮労働党の自主思想と愛国理念の具現である自力更生、艱苦（かんく）奮闘の革命精神を第一の富と見なして徹底的に具現し、社会主義建設の輝かしい全盛期をもたらしていくことについて強調した。

総会では、第1議題に関する討論が行われた。

金徳訓副総理、朝鮮労働党の朴太徳副委員長、朴訓建設建材工業相、党平安南道委員会の金頭日委員長、金策工業総合大学（平壤）の洪瑞憲総長、朝鮮人民軍将官の金明男氏が討論した。

討論者は一様に、社会主義強国を建設する闘いで生命線として捉えていくべき不滅の指針を明らかにした金正恩委員長の歴史的な報告に全幅の支持、賛同を寄せた。

各討論者は、生じた情勢と革命発展の要求を反映した党の確固不動の政治路線通りに自力更生の旗印を一貫して、さらに高く掲げて党中央委員会第7期第4回総会で示された綱領的課題を決死貫徹する決意を厳かに表明した。

総会は、第2議題を討議した。

金正恩委員長が最高人民会議第14期第1回会議に提出する国務委員会、最高人民会議常任委員会、内閣をはじめとする国家指導機関の構成案を提起した。

総会は、上程された国家指導機関の構成案を最高人民会議第14期第1回会議に提出することを全員の賛成で決定した。

総会は、第3議題である人事を行った。

党中央委員会政治局常務委員会委員、政治局委員および委員候補を解任、補選した。

金才竜、李万建、崔輝、朴太徳、金秀吉、太亨徹、鄭京沢の各氏を党中央委員会政治局委員に補選した。

趙甬元、金徳訓、李竜男、朴正男、李熙用、趙春竜の各氏を党中央委員会政治局委員候補に補選した。

党中央委員会委員および委員候補を解任、補選した。

シン・リョンマン、玄松月、文明学、金忠傑、張吉竜、朴訓、権成虎、崔日竜、宋春燮、金英才、李忠吉、姜潤石、ホ・ヨンチュンの各氏を党中央委員会委員候補から委員に、ロ・

グァンソプ、姜峯訓、崔善姫、文景德、パク・チャンホ、キム・チョルサム、趙春竜、チャン・グムチョル、キム・チョグクの各氏を党中央委員会委員に直接補選した。

キム・ミョンチョル、キム・ヨンス、楊勝虎、リ・ダム、リ・ガンソン、ユン・ガンホ、カン・チョルグ、キム・チョルス、リ・チョルジン、キム・グァンウク、チュ・ビョンワン、クァク・チャンシク、キム・チョル、リ・ギルチュン、リ・ヒョングン、キム・ボンヨン、リ・ソングク、パク・ミョンソン、パク・ジョンホ、キム・ジンヨン、パク・クァンジュ、パク・ミョンス、リ・ギョンイル、チュ・ギョンチョル、オ・チュンボクの各氏を党中央委員会委員候補に補選した。

党中央検査委員会委員を解任、補選した。

ソ・チャンリョン氏を党中央検査委員会委員に補選した。

党中央委員会副委員長を解任、選出した。

朴奉珠、李万建の両氏を党中央委員会副委員長に選出した。

党中央軍事委員会委員を解任、補選した。

金才竜、李万建、太宗秀、キム・チョグクの各氏を党中央軍事委員会委員に補選した。

党中央委員会の一部の部署の部長を解任、任命した。

李万建、チャン・グムチョル、キム・ドンイルの各氏を党中央委員会部長に任命した。

党中央委員会第1副部長を任命した。

趙甬元、キム・チョグク、キム・ヨンスの各氏を党中央委員会第1副部長に任命した。

各道党委員長を解任、任命した。

姜峯訓氏を慈江道党委員長に、パク・チャンホ氏を黄海北道党委員長に、李哲万氏を黄海南道党委員長に、キム・チョルサム氏を南浦市党委員長に任命した。

金正恩委員長が総会で歴史的な結語を述べた。

金正恩委員長は、われわれの社会主義建設が重要な転換的段階に入った時期に招集された党中央委員会第7期第4回総会が全ての参加者の高い政治的熱意の中で成功裏に行われたことに言及した。

金正恩委員長は、今回の総会が自力更生を朝鮮革命の永遠の生命線として掲げて自立経済建設の強力な土台を築いた金日成主席と金正日総書記の不滅の業績を擁護、固守して輝かし、確固たる主体的立場で社会主義強国建設偉業を前進させる上で重要な里程標をもたらした歴史的契機になると強調した。

金正恩委員長は、自力更生の革命的立場と原則を具現する上で提起される幾つかの問題について強調した。

金正恩委員長は、何よりも自力更生の旗印をさらに高く掲げていく問題を今回の総会の基本議題として提起した党中央の意図をしっかりと認識することに言及した。

金正恩委員長は、経済強国建設が主な政治的課題として提起されたこんにち、自力更生を繁栄の宝剣として捉えて全党、全国、全人民が総突撃戦、総決死戦を果敢に繰り広げることで、社会主義建設の一大高揚期をもたらそうというのが党中央委員会第7期第4回総会の基本精神であると強調した。

金正恩委員長は、自力更生の原則で国の経済力をさらにしっかりと打ち固めなければならない必要性を強調し、自力更生をスローガンとしてだけではなく、発展の死活の要求として掲げなければならないし、こんにちの社会主義建設を推し進める実質的な原動力に転換して自力で復興する新たな歴史を創造することについて述べた。

金正恩委員長は、党中央委員会総会が示した経済建設の目標を達成するための大進軍を果敢に展開してわが祖国の攻撃的な気概を余すところなくとどろかし、新たな成長段階に確実に移行することについて指摘した。

金正恩委員長は、自力更生戦略を正しく立てて全ての活動を科学的に企画し、行っていく上で活動家が担った任務の重要性と役割を改めて強調した。

金正恩委員長は、党組織と勤労者団体組織が全ての党員と勤労者を自力更生大進軍へと力強く奮い立たせる政治活動を激しく繰り広げ、全国が新たな革命的雰囲気沸き立つようにすることについて強調した。

そして、党中央委員会の当該部署が内閣の活動を積極的に後押しして内閣が今回の総会決定を貫徹するための作戦と指揮をしっかりと行うようにすることに言及した。

金正恩委員長は、社会主義生活様式を徹底的に確立するのが文化的生活分野で主体性と民族性を固守し、社会主義の本態を守り、その優位性を高く発揚するための重要な活動であることに言及し、その実現のための闘いで党組織と活動家に提起される課題を示した。

金正恩委員長は、全ての活動家と党員、勤労者が自力更生大進軍を激しく繰り広げて党中央委員会第7期第4回総会が示した闘争目標を確実に達成することで、社会主義建設で新たな発展を遂げて自力で上昇の一途をたどるわが国家の威容を改めて力強くどろかすものとの期待と確信を表明した。

金正恩委員長の指導の下に行われた党中央委員会第7期第4回総会は、わが党を革命の強力な指導的組織にさらに強化し、発展させ、自力更生を繁栄の宝剣として捉えて社会主義建設の全ての戦線で革命的な高揚を起し、国の総合的国力をあらゆる面から打ち固めていく上で画期的な里程碑をもたらした歴史的な契機になる。

●朝鮮中央通信論評

「戦争装備搬入は同族に対する露骨な否定であり、威嚇、恐喝である」(04/13)

南朝鮮当局のF35A戦闘機搬入を批判

先日、南朝鮮当局が忠清北道の清州空軍基地に2機の米国製ステルス戦闘機F35Aを引き入れた。このように、今年中に10余機、2021年までに計画された40機を全て搬入するという。これは、朝鮮半島の情勢を緊張激化へ追い込む重大な挑発行為であって、戦争のない平和な世界で生きようとする朝鮮民族と人類の念願に対する露骨な挑戦である。

周知のように、北と南は歴史的な共同宣言を通じて朝鮮半島で激しい軍事的緊張状態を緩和して戦争の危険を実質的に解消するために共同で努力し、特に板門店宣言の軍事分野履行合意書を徹底的に順守していくことを確約した。

南朝鮮当局には、戦争装備の搬入をはじめ朝鮮半島情勢緊張の根源となる一切の行為を中止すべき責任と義務がある。

しかし、現「政府」は全同胞と世界の前で交わした約束を破り捨てて外国製装備を大々的に引き入れている。

さらに看過できないのは、問題のF35Aが「空軍の作戦能力向上」という美名の下に同族に対する奇襲攻撃を実現する目的で入ってくる事実である。

南朝鮮当局の今回のステルス戦闘機搬入騒動は、朴槿恵政権時代に軍部好戦狂がわれわれに対する先制攻撃システムである「キル・チェーン」を構築するために立てたF35Aの40機導入計画の実行以外の何物でもない。

内外の糾弾、排撃を受けている高高度防衛ミサイル(THAAD)のような戦争装備を一つでも取り払う代わりに、かえってステルス戦闘機まで引き入れている現当局の行動が先制攻撃を騒いで同族対決に狂奔した朴槿恵「政権」時代と果たして何が違うのかを問わざるを得ない。

現実には、南朝鮮当局が表では和解を求め、裏では依然として軍事的対決のやいばを研いでいることを明白に実証している。

先端殺りく手段の搬入で朝鮮半島情勢が凶らずも緊張激化へと突っ走るかもしれない。

南朝鮮のメディアと専門家が「F35Aの導入が北の強い反発を招くであろう」「南北関係に『危険な変数』として作用しかねない」と評しているのは決して偶然ではない。

戦争装備を引き続き引き入れるのは明白に、対話の相手に対する全面否定であり、威嚇、恐喝である。

南朝鮮当局は、自分らの慎重でない行為がどんな破局的結果をもたらすかを正しく認識して自粛する方が良からう。

●朝鮮外務省米国担当局長、ポンペオ米 국무長官を糾弾（04/18）

朝鮮民主主義人民共和国外務省の権チョングン米国担当局長は18日、最近、ポンペオ米 국무長官が様々な妄言と詭弁を弄していることと関連して、朝鮮中央通信社記者の質問に次のように答えた。

朝鮮民主主義人民共和国國務委員会委員長金正恩同志は、最高人民會議第14期第1回會議において、歴史的な施政演説を通じて朝米関係と核問題解決に関する原則的立場を明らかにし、今年末まで忍耐をもって米国の勇断を待つ考えに言及した。

これに対し、米国が年末までに計算法を変えて肯定的な回答をしなければならないと、万人が明白に理解している時に、米 국무長官ポンペオは一人で、「年末まで朝米間の実務交渉を終えることを意味する」などと、寝言のようなことを述べ、人々の嘲笑を呼んでいる。ポンペオがこのような言動をおこなっていることについて、言葉の意味が分からないのか、意図的に理解していないふりをしているのか、その底意は分からないが、彼が本当に理解していないとしたら、非常に危険である。

彼の言動が意図的であるならば、小説家のようにフィクションをうまく作り上げる特技を生かし、まるでわれわれが要求していることが、年末まで実務交渉を終えることであるかのごとくその意味を歪曲することで、米国が年末まで行動しなければならないという拘束感から脱しようとする愚かな計算に過ぎない。

わが國務委員会委員長同志が明らかなしたように、米国はこのような思案などで、我々をびくともさせることはできないであろう。

ポンペオは、今まで平壤を訪れ國務委員会委員長同志の接見を何度も受け、非核化を哀願しては翻り、先週行われた議会の聴聞会で、われわれの最高尊厳を冒瀆する妄言を吐くことによって、自分が低質な人間であることをみずから露呈し、理性的な人々の驚愕を呼び起こしている。

この機会に、わが國務委員会委員長同志が施政演説で明言した、対米関係における立場の意味を改めてポンペオに明確に伝える。その意味はつまり、米国は、我々を核保有国へと押し上げた根源、非核化を妨げる障害物を自分の手で今年末まで取り除かねばならないということであり、そうしない場合、朝鮮半島情勢がどのように展開していくか、誰も予測できなくなるということである。

ポンペオが勝手に言い繕いながら、朝米関係全般を自分の思い通りに揺さぶり、自分の人気を上げようと企んでいる中でも、幸いなことは、國務委員会委員長同志とトランプ大統領の個人的な関係は依然として良好であり、國務委員会委員長同志がトランプ大統領と親しくしていることをうれしく思っているということである。ハノイ首脳会談の教訓に照らしてみても、ことがうまくいきそうなきも、ポンペオが割り込んできただけで、事がこじれ結果物が消え飛んでしまうのが常であったが、今後も私が憂慮するのは、ポンペオが会談に関与すると、場が雑然となり、事がこじられる恐れがあるという点である。

したがって、今後、米国との対話が再開される場合でも、私はポンペオでなく、我々と意思疎通をより円満に図れる円熟した人物が対話の相手になることを期待するばかりである。

●朝鮮中央通信社論評：「政治小者のお粗末な行為」（04/18）

日本の朝鮮敵視政策は国際的孤立免れない

政治小者の日本が大勢に逆らって日増しに出来損ないのように振る舞っている。

昨年、われわれのいわゆる海上での物資の積み替えの可能性について大声を上げて騒いできた日本が、今年も「瀬取り疑惑」に汚らわしくしがみついで世界の非難を自ら招いている。

日本の外相は先日、フランスで行われた先進7カ国（G7）外相会合で、再び対朝鮮「制裁決議」の徹底的な履行と「船舶間の瀬取りを通じた北朝鮮の原油購入の試みの遮断のために緊密に協力」することを各国に哀願した。

一方、内閣官房長官は5月に予定されている国連会議で誰それによる「日本人拉致問題」の解決のための国際的支援を促すと騒ぎ立てている。

今、国際的な対朝鮮圧力共助体制を維持、強化するために見境なく飛び込む日本の振る舞いは、朝鮮半島情勢の流れから完全に押し出された連中のお粗末な行為であって、国際社会の嘲笑だけを買っている。

世界が注目するように、歴史的な最高人民会議第14期第1回会議では朝鮮革命の特殊な環境とこんにちの複雑な世界情勢の中で朝鮮が自主権と尊厳を固守し、真の繁栄を遂げるために確固たる自主的立場に立って自分の力を強化し、自力で社会主義を建設していくことに関する変わらない国家建設の根本原則が改めて確認された。

敵対勢力の制裁の突風を自立、自力の熱風で吹っ飛ばし、社会主義強国の建設を力強く押し進めているわが国家をそのようなつまらない行為であえて驚かせると思うこと自体が愚か極まりない。

今、広範な国際社会は敵対勢力の制裁、圧力の中でも自主の旗印を高く掲げて国の安全と人民の幸福を頼もしく保証し、朝鮮半島と地域の情勢を緊張緩和と平和、発展へと力強く促すわが共和国に固い支持と連帯を寄せている。

ところが、大勢を見極められない度量の狭い日本の反動層だけは意地悪くも使い古した対決策動に引き続きしがみつきの、何としても形勢を覆そうと躍起になっている。

日本政府は、「国際的共助による既存の対朝鮮圧力政策を変わりなく推進」することを政策化し、対朝鮮制裁策動を日々強化している。

問題は、これによって日本が得るものが何かということにある。こんにち、安倍一味が対朝鮮敵視的妄動で得たものとは自ら招いた国際政治舞台での孤立という結果しかない。

その原因は、日本が世界の志向に反して今まで朝鮮半島の情勢悪化を自分らの軍事大国化策動を合理化する口実に利用してきたからである。

20世紀に人類に反対する侵略戦争を起こして特大型の反人倫犯罪を犯した戦犯国の日本は朝鮮半島の情勢悪化をいいことに、国際社会の面前で公然と軍事大国化に拍車を掛けてきた。

日本の反動層が執拗（しつよう）に起こしている海上監視騒動も、朝鮮半島の情勢を何としても悪化へと誘導して軍国化策動の名分を立てることで、国際社会から疎外された自分らの人前を取り繕うというのである。

鈍くて愚かな日本が引き続き無分別に振る舞うなら、望むものは何であれ、永遠に国際的な孤独の境遇を免れないであろう。

●朝鮮の崔善姫第1外務次官：ボルトン米大統領補佐官の発言を批判（04/20）

朝鮮民主主義人民共和国の崔善姫第1外務次官は20日、ボルトン米大統領補佐官（国家安全保障担当）が、第3回朝米首脳会談実施について「思いあがった発言をした」としながら、朝鮮中央通信記者の質問に次のように答えた。

ボルトン国家安全保障担当補佐官は、17日ブルンバーグ通信とのインタビューで、「北朝鮮が第3回朝米首脳会談前に、核兵器を放棄する戦略的決定をしたことを示す真の兆候が必要だ」、「トランプ大統領が述べた『ピック・ディール』について論議する準備ができていなければならない」などと、思いあがった発言をした。

元来、われわれは、ボルトン補佐官がいつか理性的な発言をすると期待したことは全くないが、それでも、ホワイトハウスの国家安全保障担当補佐官であるならば、朝米両首脳間の3回目の首脳会談について、どんな趣旨の対話がなされるかを把握したうえで発言すべきであったろう。

ボルトンが発したこの発言は、第3回首脳会談に関する朝米両首脳的意思に対する無理解から出たのか、または自分のユーモア感覚を生かして発言しようとして訳が分からなくなったのかは知る余地もないが、どうであれ、私には、魅力なく聞こえ、間抜けに見える。ボルトンの発言には、米国人の発言から一般的に感じる米国式才覚や論理性が見られない。警告しておくが、今後も引き続き、このような訳の分からない発言をするなら、彼にとって良いことはないであろう。

●朝鮮の外務省第1次官、米国務長官の詭弁を断罪（04/30）

朝鮮民主主義人民共和国の崔善姫外務省第1次官は、ポンペオ米国務長官が朝鮮半島の非核化問題と関連し詭弁を弄しているとして4月30日、朝鮮中央通信社の記者の質問に次のように答えた。

米国務長官ポンペオが24日、米CBS放送とのインタビューで、「経路変更」なるものを云々した。

これは、最大限の圧力と経済封鎖をもってしても、われわれをどうすることもできなくなり、軍事的方法を動員してでも、わが国の制度を崩壊させようとする愚かで危険な発想である。

金正恩国務委員長同志は、最高人民会議第14期第1回会議における歴史的な施政演説で、米国が今の計算法をあきらめ新たな計算法でわれわれに接近することが必要であり、今年末まで米国の勇断を待ってみるという立場を明らかにされた。

言い換えれば、米国が今年末まできちんとした計算法を持ってくれば、核問題の解決が可能だという期限を定められた。

国務委員長同志は、4月25日に行われた朝米首脳会談で、米国の一方的で、非善意的な態度について強く叱責しながら、朝鮮半島の平和と安全はすべて米国の今後態度如何によって左右されるであろうし、われわれはすべての状況に対応するであろうという立場を明らかにされた。

われわれの非核化意志には変わりなく、時が来れば非核化するであろうが、それはあくまでも米国が現在の計算法を変え、立場を再定立する条件の下でのみ可能である。

米国が云々する「経路変更」なるものについて言うならば、それは米国だけの特権ではなく、その気になればわれわれの選択になりうる。

米国が今のように問題をかき分け、別の道で迷いながら、われわれが提示した期限内にみずからの立場を再定立してこなければ、米国は真に望まない結果を見ることになりうるであろう。

われわれは、われわれが行く道を知っているが、米国に期限を定めた以上、選択をためらっているだけである。

米国は、われわれが年末まで期限を与えた意味を肝に銘じ、今後の経路を定める方がよいだろう。